

**d i g i t a l
i m a g e
1 9 9 2**

digital image 1992





ONE DAYハレ後アメ hardware=PC9801-RA Super Frame2Σ software=SuperTableauPREMIUM

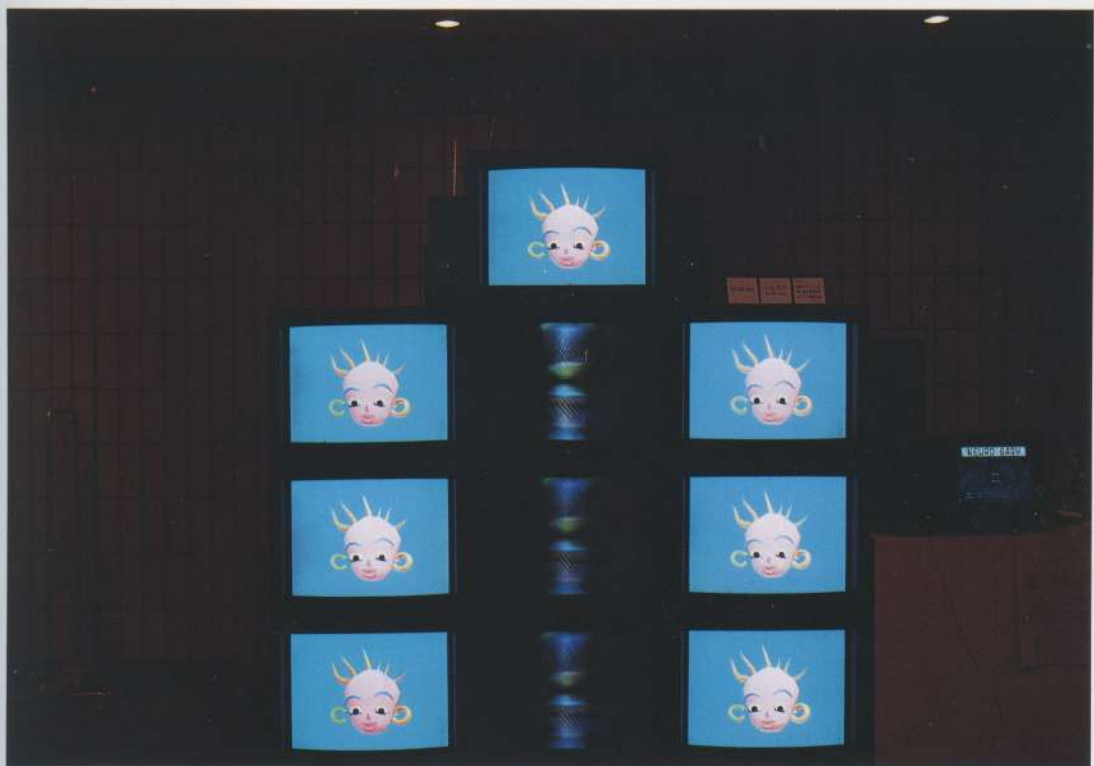


得能 泉

Izumi TOKUNOU

1958愛媛県生まれ。1980多摩美術大学美術学部絵画科卒業。1982同大学院美術研究科終了。現在、フリーのコンピュータ・アーティスト。主に車用品のパーツの企画、デザイン、成形、製品化を手がける。フロントスポイラー、サイド、ウイング他、レース用エアロパーツ、MR-2用リアエアロボンネット、車のカラーリングなど。現代美術にて数回、個展およびグループ展を開く。

自分のらくがきをするつもりでCGを始め、早くも5年。○○画風、○○風と数はウンザリするほど増えたものの何も変っていないような気がする。まるで、ピアノやバイオリンのようにどの楽器を選ぶかといったように、どのハード、ソフト、出力メディアを選ぶかということは、演奏されたラップと協奏曲の区別がつかないまでも、オリジナルな目的意識をもったイメージメッセージとしてファイルされる。私自身がデトロジ化する道具こそCGだと思う。空気感とか存在感とかリズム感とか全部ひっくるめてらくがきをしたい。



NEURO BABY hardware=iHIS4D/25TG,FM TOWNS software=FDD(富士通研究所original)
協力=(株)富士通研究所、日本シリコングラフィックス(株)、ダイキン工業(株)、(株)Big Towns



土佐尚子

Naoko TOSA

アーティスト。武蔵野美術大学映像学科・総合電子専門学校コンピュータアート科講師。1985如月小春主宰劇団NOISEの映像担当を始める。1985NICOGRAPH CGグランプリ入賞。1986NEW VIDEO JAPAN(ニューヨーク近代美術館)招待出品。SIGGRAPH86,87入選。1988プリズベン国際レジャーセンター博覧会ジャパルテクノロジー招待出品。1990モンペリアル・インターナショナルTV&ビデオフェスティバル招待出品。1991(株)富士通研究所の技術協力にてニューロコンピュータなど新しいテクノロジーを使用したインタラクティブ・アートの研究を始める。

情報過多にまみれ目まぐるしく時間に追われて働き、東の間の幸せに漂っている現代人(特に都会人)と共に生まれた生物がいます。それが「NEURO BABY」です。名称の由来は、ニューロコンピュータがまだ生まれたばかりであるということ、仮想の生物の出現をかけているのです。彼らは、コンピュータの中で生きています。クリーンで、愛らしく、面倒臭くなくなったら電源を消すといなくなり、欲しい時は電源をONにすればよいのです。しかも、個人が好みに応じて性格を作り、成長させることができる可能性を持っています。人々は、「どうしてこの子は言うことをきかないの」などと悩まなくてもよいのです。しかし、それでは人間臭くないので物足りないという人はあまのじゃくな性格にして育てればよいのです。玩具であり、ベットのあり、成長していく高度な生物なのです。